

Centric Space Occlusion(CSO) 理論に基づいた症例報告

○田中俊樹¹⁾, 濱田孝一郎²⁾, 尾澤暢彦³⁾, 長坂康裕⁴⁾¹⁾医療法人聖徳会田中歯科クリニック, ²⁾東京デンタルクリエート
Toshiki Tanaka¹⁾, Koichirou Hamada²⁾, Nobuhiko Ozawa³⁾, Yasuhiro Nagasaka⁴⁾³⁾Medical Corporation Seitoku Group Tanaka Dental Office,⁴⁾Tokyo Dental Creat

【目的】

頭蓋骨に対する骨学的統計分析されたマイオドンティクス理論における数値を基本とした上顎の咬合平面の設定によるマウスピース療法とオーラルリハビリテーションの治療において、CSO理論を基に良好な成果を得た治療手順の報告が、一般臨床の一助になる事を目的とする。

【方法】

- ①上顎歯列及び上顎咬合平面の診査(スタディモデル) オザワ ダイナバーティ システム を用いた咬合器装着
- ②統計学的正常値との誤差の修正。(低出歯牙への添加)
- ③統計学的正常値範囲の上顎咬合平面を付加したマウスピースおよびプロビジョナルブリッジの作成
- ④口腔内装着(審美的評価)
- ⑤ Centric Space Occlusion への咬合調整
(CSO)とは、
Centric Point:(Ideal Occlusion)Centric Occlusion = Centric Relation
Centric Area:(Long Centric, Immediate Side Shift)を包括し、頭蓋骨に対する正常な位置にある上顎歯列の咬合平面と無意識下において移動する下顎歯列との間の3次元的な空間域を中心とする個性的バランス咬合を言う。口腔内における調整方法は、病因、病状により千差万別のため各個人特有と成る。
固有の要因:
(口腔内状況、年齢、年代、DNA、生活習慣姿勢、食生活、発音、寝具その他)を考慮し咀嚼効率、

発音機能、審美性、自己免疫能力などを向上させる空間への調整、構築。

- ⑥再評価(問診表の全身的病態の数値の変化)咬合調整。
- ⑦最終マウスピースおよび補綴物の装着(仮着)
- ⑧メンテナンス(再咬合調整、口腔ケア)

【結果】

オザワ ダイナバーティ システム を用いた上顎咬合平面に対する Centric Space Occlusion 理論は、マウスピース療法に限らず咬合の破壊された末期症状の患者に対するオーラルリハビリテーション治療においても良好な予後を得ている。